

第 7 回 日 ASEAN スマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合 成果文書(和訳)

1. 第 7 回 日 ASEAN スマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合は、2025 年 11 月 10 日から 11 日にかけて、日本国香川県高松市にて開催された。本会合は、日本国国土交通省天河宏文国土交通審議官と、マレーシア住宅・地方自治省 (KPKT) 持続可能性・戦略計画担当モハマド・ハズリ・B・アーマド・アット・アドナン副次官の共同議長のもとで実施された。
2. 本会合のテーマは「包摂性 (Inclusivity)」であり、すべての社会経済層、特に脆弱な人々、インフォーマル労働者、移民を含む人々に対するデジタルインフラ、都市サービス、参加型ガバナンスへの公平なアクセスを含むよう拡充された。議論では、高齢化、出生率低下、AI による労働市場の変化、社会経済格差の拡大といった共通の人口・構造的課題に対し、理念的な言葉から実行可能な戦略への転換が強調された。
3. 本会合の全体会議に先立ち、日本国国土交通省より、2020 年の第 2 回会合で提案され、2021 年より実施されている「Smart JAMP (Smart City supported by Japan ASEAN Mutual Partnership)」による支援の成果が報告された。例えば、バスサービスのデジタル化などのプロジェクトが順調に進展し、具体的な成果を上げていることが紹介された。併せて、今後の展望についても意見交換が行われた。
4. 第一部では、ASEAN 事務局より、スマートかつ持続可能な都市開発に関する ASEAN の取り組みが報告された。また、ASEAN スマートシティ・ネットワークの代表者から、「包摂性」の観点から実施されているスマートシティ施策が共有された。続く第 2 部では、国際機関、ASEAN 加盟国、学術機関、地方自治体、民間企業など多様な背景を持つ代表者が、「包摂性」に基づく取り組みを発表し、「防災」および「人間中心の開発」の視点からのアプローチが強調された。これらの発表は理解を深め、関連する取り組みや知見の共有を促進し、今後の方向性に関する意見交換を可能にした。
5. 本年は、持続可能な開発目標 (SDGs) の概念が導入されてから 10 周年にあたる。日本と ASEAN は一貫して「包摂性」を重視し、様々な分野で協力を進めてきた。世界的に「包摂性」の重要性が高まる中、日本と ASEAN は以下の点について確認した：
 - (i) 高齢者などの脆弱な層を取り残さない施策の推進、スタートアップ支援を通じた中小企業の包摂、都市間格差の是正に向けた取り組みの推進；
 - (ii) 国・地域、研究機関、個人、企業など多様な主体間の相互学習と人材交流の促進；

(iii) 誰一人取り残されることなく、すべての人が尊厳を持って暮らせる「人間中心の社会」の実現に向けた協力。

6. これらの共通認識に基づき、日本は次回会合までに広く共有可能な事例集の編纂と、Smart JAMP によるさらなる支援を提案した。この提案は、ASEAN 加盟国および会合に参加した ASEAN スマートシティ・ネットワークの都市から歓迎された。事例集には以下が含まれる：

- 本会合で共有された優良事例；
- 2022 年に ASEAN 事務局と日本国国土交通省が共同で作成した「ASEAN スマートシティ計画ガイドブック」に掲載された具体的事例。

7. 最後に、ASEAN と日本は「日 ASEAN スマートシティ・ネットワーク ハイレベル会合」の継続的な開催に合意し、ASEAN におけるスマートシティの実現に向けた協力の継続を改めて確認した。